

平成27年度 世界自然遺産に関する 村民意見交換会概要報告（母島）

開催日時：平成27年11月12日（木）午後6時30分～8時30分

会場：村役場母島支所2階会議室

参加者：24名（母島村民17名、事務局関係者7名）

今回の意見交換会は、世界自然遺産に係る各機関の取組紹介と、世界自然遺産に関する村民意向調査の結果速報を行った後、村民参加型のワークショップを行いました。テーマは、「遺産登録100年後の小笠原～登録5周年を前に～」と、「動物と暮らすということ～ペットとの付き合い方～」で、村民の皆様が普段の生活の中で感じておられる素直なご意見をたくさんいただくことができました。一つ一つのご意見に真摯に向き合い、村民の皆さまにご協力いただきながら、世界遺産小笠原を守っていけるよう励んで参ります。

意見交換の内容を、テーマごとに以下にまとめました。

1. 世界自然遺産に係る各機関の取組紹介

＜外来種対策の進め方について＞（●：村民の意見 ○：行政機関の意見）

- 母島山城遊歩道沿いの小鳥の水場の予備ボトルが空になっていることがある。常時水が入っているよう管理をしてほしい。
- 管理は行っているが、水が入っていないことがあったら教えていただきたい。（林野庁）
- 母島世界遺産センターの話はどうなったか。
- 現時点では予算措置の見通しがついていない。村民の皆様のご意見をうかがいながら、整備に向け更なる検討をしたい。（林野庁）
- 北港に分布しているツヤオオズアリの対策について、報告をいただきたい。
- 北港休憩舎周りのツヤオオズアリの駆除については、10月末に都道北端から80mのエリアに、トラップ150個を設置した。ベイト剤はかなりの量の減少がみられている。（東京都）
- 兄島ではベイトステーションの効果でネズミが低密度化されつつあるとのことだが、密度が下がったというのは、対策を実施した範囲内での話か、それとも兄島全体か？
- 低密度化されたというのは、陸貝保全にとって重要な「重要保全エリア」内での話である。他の場所では、密度測定も行っていない。（環境省）
- 有人島、母島（特に南崎等）でのネズミ対策の見通しは？ベイトステーションのメンテナンスが大変ということならば、有人島から始めるのでもよいのではないか。
- 有人島である父島では、鳥山半島でベイトステーションの設置を検討しているが、南崎では具体的な対策案はない。姪島と妹島の陸貝は、ネズミ食害はひどくはなかった。
- 姪島はカラヒワ保全のためにネズミ対策が重要である。

○南崎でネズミによる海鳥被害はあるか？（環境省）

→南崎の半島部でオナガミズナギドリの雛がネズミに齧られた痕跡はあるが、それが死因なのかどうかはわからない。

→東京都では、海鳥の食害を防ぐため南島でのネズミ駆除を行う。南島ではこれまで何度も駆除を行っているが、ネズミの生息密度が高まり、アナドリの被害が見られている。オナガミズナギドリの被害は見られていない。海鳥の営巣に影響が少なく、入島禁止期間でもある12月から2月にかけて200か所にベイトステーションを配置し、効果を観察する。（東京都）

2. 世界自然遺産に関する村民意向調査（結果速報）

<意見交換>（●：村民の意見 ○：行政機関の意見）

●中高生対象のアンケートで、事業説明会や講演会へ参加したという割合が高いと思ったが、父島ではそんなに中高生が参加しているのか？

○環境省の住民説明会に参加している高校生はあまり多くない印象である。中学・高校で授業を行っていたり、兄島キャンプや兄島観察会に高校生がくることはあったので、そういった機会が反映された結果と思われる。（環境省）

3. ワークショップⅠ：遺産登録100年後の小笠原～登録5周年を前に～

話題提供として、中高生向けの村民意向調査の結果より、中高生の考える「将来の小笠原」を紹介し、それをヒントに、「遺産登録100年後 2111年の小笠原はどうなっていてほしいと思いますか？」という問いに参加者からご意見をいただきました。意見のいただき方については、村民と事務局関係者の立場を分けず、参加した人全員に各個人の思いを付箋に記入してもらいました。いただいたご意見を表1に示しています。



ワークショップの開催風景

（環境省よりコメント）

○母島は父島以上に孤立した状態であるためか、「自立した小笠原」といった意見が多いと感じた。エネルギー自給、食糧自給については、今のシステムがサステナブルかという疑問である。生活の安全保障上の自立は重要なキーワードだと思う。父島と比べ、経済活動に関する意見が少ないと感じた。遺産登録に伴う影響・変化をあまり受けていないのかと思う。観光業は遺産の影響で左右されるのだが、母島はそこまでではないのかと思った。

<意見交換>

●もっと多くの村民が意見交換会へ参加するような意識変化があるとよい。

○広報手段は模索中であり、来年度への課題である。来年度は遺産登録5周年なので、村民の皆様と遺産について考える機会をさらに作っていきたいと思う。（小笠原村）

4. ワークショップⅡ：動物と暮らすということ ～ペットとの付き合い方～

話題提供として、「愛玩動物による新たな外来種の侵入・拡散に関する地域課題ワーキンググループ」についての説明を行い、その第1回会議で議論された「イヌ・ネコ以外のペットを登録制にすることについてどう思いますか？」という問いに参加者からご意見をいただきました。意見のいただき方については、回答の選択肢を「すごくよい」、「ややよい」、「どちらともいえない」、「ややいやだ」、「すごくいやだ」と設け、参加した人全員に該当する選択肢と選択した理由を付箋に記入してもらいました。いただいたご意見を表2に示しています。



ワークショップの開催風景

<意見交換> (●：村民の意見 ○：行政機関の意見)

- ペット登録制の実施については、生態系保全の目的でご理解をいただけるということがわかり、参考になった。いただいたご意見は愛玩動物対策のワーキングにも報告する。実際登録制度を作るとなるといろいろと難しい点も出てくるが、今のところ好意的に受け止められるということは大いに参考にさせていただきたい。(村)

以上

Q 1. 遺産登録 100 年後 2111 年の小笠原はどうなっていてほしいと思いますか？

表 1 村民から出された意見（複数回答可。分類テーマは意見提出後に設定）

【豊かで健全な自然】 15 件
<ul style="list-style-type: none"> ・アカギの 60 年計画実現しているか。シマホルトは増えているか。 ・固有動植物が人の手助けを借りる事なく健全に飼育・生息している環境になってほしい。 ・海洋島らしい固有種が失われない島になってほしい。 ・外来種駆除の手法が改善され、問題解決している。 ・ウミガメが戻って来る島 ・自然再生事業がうまく進み、小笠原の自然がより良い環境になっている。 ・いろんな生き物がいてほしい。アカポッコ、ヒワ、母島の人、シマホルトノキ、ハハジマノボタン ・外来種が入らない方法が確立している島 ・広範囲でなくてもよいので、ポイントをしばった自然保護を。もちろん広いにこしたことはありませんが。 ・ワダンノキはツルタコに負けず増えているか。 ・良くも悪くも生物多様性が進んでいる。 ・実は絶滅寸前のカワラヒワの対策が進み、どこでもカワラヒワが見れるようになっている。 ・技術の進歩で沖港の水質が良くなり、キレイになる。 ・サンゴや漁業資源が豊かな海に囲まれた島 ・自然の豊かさと平和の象徴
【自立した小笠原】 10 件
<ul style="list-style-type: none"> ・人間の力が必要のない自立した自然環境の島 ・地産地消が進み経済的に自立。 ・行政特区になる。今の日本の行政にあてはまらない、小笠原独自の行政システムを。 ・島内で消費される食品の自給率が高まり、定期船に頼らない生活ができるようになる。 ・補助がなくなり、島が自立する＝自治を取り戻す。 ・独自の文化を発展させた島 ・村民が村民のために村民同士で話し合い、自立した島づくりのできる島 ・化石燃料がなくなり、内地とのアクセスが減り、車はなくなり、鳥と牛が活躍。島が自給自足できる。 ・内地とはちがう独自性を目指して、小笠原らしさを極めて進めていって他にはない場所になっている。 ・母島が独立して、自分達の事は自分達ですべて決められるようになっている。
【暮らしと自然の共存】 8 件
<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産としての自然を残しつつ、今より人口も少し増えて、賑やかな島 ・全ての住民が自然保護に高い意識をもっている ・今より自然環境が悪化していない。エネルギーの自給自足・太陽光・風力・電気自動車。 ・エネルギー特区になる。今の火力発電ではなく、自然エネルギーのみの発電をする島 ・豊かな自然が残って、内地とのアクセスが便利になり、島民の生活が豊かになればよいと思う。 ・人口は増加しているが、自然も守られている。クリーンエネルギーを使い、世界的なモデル地域になっている。 ・人も自然も幸せに共存できる島 ・世界で小笠原だけ！という取組が成立している島に。バイオマスエネルギーとか。
【暮らしやすさ】 6 件
<ul style="list-style-type: none"> ・物流は大きく改善されて内地並みに便利なくらし ・老後住みやすい島 ・島でまた出産ができるようになっている。 ・住んでいる人が住み続けたいと思え、それが可能な島 ・小笠原にサテライト大学ができ、島内にいる人がいつでも自分の望む教育が受けられるようになる。 ・暮らしやすい環境が維持されている島

【ステキなまま】 3件
<ul style="list-style-type: none"> ・自然がステキな小笠原のままで！現状キープよりちょっとステキになってほしい。 ・今と変わらず平穏な暮らしができる。 ・自然環境が変わっていない。(変化のない小笠原)
【変化】 3件
<ul style="list-style-type: none"> ・硫黄島に住んでいて自由に行ける。小笠原からグアムへの航路復活 ・小さな航空路ができていて、内地とのアクセスが楽になる反面、今の島らしさがなくなっている。 ・人の住んでいない無人島
【小笠原でおもてなし】 1件
<ul style="list-style-type: none"> ・小笠原島民すべてがホスピタリティーあふれるガイドのような存在になってほしい。

Q2. ペットを登録制にすることについてどう思いますか？

表2 村民から出された意見

【すごくいやだ】 (1件)	【ややいやだ】 (0件)	【どちらともいえない】 (4件)	【ややよい】 (4件)	【すごくよい】 (13件)
<ul style="list-style-type: none"> ・すごくいやだ。 		(理由) <ul style="list-style-type: none"> ・行政的コストパフォーマンスの問題 ・登録する意味の整理が必要だと思う。 ・どちらともいえない。 ・固有種保護の目的ではなく、「ペットのために」という目的にするべき。 	(理由) <ul style="list-style-type: none"> ・実効性が伴わないと不公平感が生じると思うが、危険なものは把握する必要あり。 ・簡単な登録で済むのなら。 ・ややよい ・(白票1件) 	(理由) <ul style="list-style-type: none"> ・海洋島の生態系を考えるとよいと思います。 ・小笠原の自然を守るために必要 ・ペットを適切に飼育し、命を大切にするためにも必要 ・もし捨てたり逃げたりしても、登録しておれば無責任な行動はとらないし、とれないだろう。 ・賛成です。危険を回避できる。 ・管理は必要 ・外来種の流入を管理するにはよい。 (意見) <ul style="list-style-type: none"> ・少人数の母島では、全て見えてしまうのでやりやすいが、父島で徹底するのは難しいかもしれません。 ・一般島民の植物の持ち込みに伴う昆虫等の対策も検討してほしい。 ・すごくよい ・よい ・(白票2件)